



# 校長室だより

第13号

H24. 1.18

桐ヶ丘中学校

校長 永嶋 昌博

ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.kita-tky.ed.jp/~jh62/>

学校教育目標：自立(Independence)・協力(Cooperation)・創造(Creation)

1月14日、今年初めての土曜授業が行われました。寒い日でしたが、各学年授業に集中して取り組んでいました。

## <1年生百人一首大会>

1年生は、百人一首大会をランチルームで行いました。グループに分かれて学級対抗の形で行いました。先生が読み上げると、子どもたちは懸命に札を探していました。先生が上の句を読んだときに、下の句を知っている子どもは、先生が下の句を読む前にサッと取ってしまう光景もありました。「なかなかやるな」と感じました。優勝は4組でした。日本伝統の百人一首を体験することは



とてもよいことと思います。有意義な一時でした。

## <2年生防災教室>

2年生は「防災学校」というプログラムを朝の1・2・3校時を使い行いました。地震による災害時に地域の中学生が防災の担い手になるということを想定して訓練を行いました。子どもたちも真剣に取り組んでいました。北区の防災課の職員の方々や消防署の方々においでいただき指導を受けました。けがをした人にどのように包帯を巻いたらよいか、人工蘇生の方法、D1ポンプの放水による消火活動、煙体験、起震車による地震体験などのプログラムを体験しました。D1ポンプの放水訓練は消防署の方から指導を受けました。「はい！」という大きな声で返事をする。気をつけをして敬礼して迅速に作業を進めることなど、日常では経験できないことを体験しました。ポンプのエンジンの始動からホースを持って放水することまで子どもたちの手で行いました。阪神淡路大震災、東日本大震災の教訓を生かして、今後私たちの町でも起こりうる大地震に備えて少しでも中学生が活躍して地域に貢献できるとよいと思っています。同時にこうした活動を通して「自分は役に立つ存在なんだ」という自己肯定感、自己有用感を育てるよい機会となります。中学生は何かと地域で疎ましく思われることが多いようです。「公園で集まっている」とか「大声で話をしている迷惑だ」などよく話を聞きます。子どもたちは自分をもっとよくしたいという思いを誰もが持っています。そういう環境を作っていることも私たち大人の責任でもあると感じています。桐中の子どもたちは今回の防災体験で防災意識をさらに高めて欲しいと願っています。



## <地域児童館主催の講演会>

午後2:00より桐ヶ丘中学校ランチルームにて「いまどきの中学生」と題して講演会を行いました。当日は桐ヶ丘中の保護者の方を始め地域の自治会長さん、保護司や主任児童委員民生委員の方々もおいいただきました。内容は桐ヶ丘中学校の子どもたちの日頃の様子や頑張っていること。保護者からの学校評価のこと、学校で取り組んでいること等でした。本校の森永生活指導主任からも子どもたちの様子や学校の取り組みなどをお話ししました。

私は桐ヶ丘郷小の校長を3年間勤めて感じたことは、「小学生も中学生も基本的には同じ子どもであ



る」ということです。子どもは基本的にみんな純粋です。ただ、子どもの表現が、幼い子どもと中学生と異なるだけです。小学校低学年の子どもは何でも吸収していきます。でも、自分が気に入らないことに対しては泣きながら抵抗します。それこそ教室の床に転がって自分の不快感をあらわに表現することさえあります。中学生ではこのような行動はまずないでしょう。それぞれ年齢に応じて自分の思いを表現する方法は異なるものです。中学生なら「むかつく！」というような粗暴な言葉を発する子どももいるかもしれません。いずれ

にしても将来社会人として人とコミュニケーションがとれる大人にならなくてはなりません。そのためには自分の気持ちを相手に分かるように伝えることが必要です。また相手の立場に立った話し方ができることも大切なことです。参加された桐中の保護者の方がこのような発言をされていました。「私が中学校時代を過ごした中学校は校内暴力で荒れていました。トイレやドアは壊され壁もなくなりました。暴走族も校庭をバイクで走り回っていました。でもそのときの校長先生の言葉が印象的に心に今でも残っています。それは、”環境が人をつくる。人が環境をつくる”という言葉でした」私はこのお話をお聞きしてハッとしました。まさにその通りだと思いました。人は環境によって良くも悪くも変わります。ここでいう環境というのは、教室をきれいに使うとか掲示物をきれいに掲示するなど、物とか場所などの環境だけでなく、学習環境や心の環境も含まれると感じています。子どもたちの心を豊かに育てるためには、子どもたちをよくしたいという私たちの情熱と愛情が必要です。そのために意図的に様々な活動を体験させ、「やってよかった」と子どもたちが思えるものでなければならないと思います。

桐ヶ丘中学校では、平成24・25年度の2年間、北区研究協力校を受けることになりました。テーマは「ICTを活用した学力向上」です。そのために私たち教職員は一丸となって取り組みます。ICTによる教育は日本は先進諸国の中でも後れを取っている現状があります。ICTを有効に使い、子どもたちに意欲的に自ら考え発信できる資質を高めたいと思っています。また交流活動では山形県酒田市との交流やアメリカセブンヒルズスクールとの交流も検討しています。私はセブンヒルズスクールに個人的に昨年の夏休みに訪問してきました。北区の事業であるホームステイプログラムの中でテレビ会議などの交流を10年間にわたり担当してきました。「ぜひ来い！」というメールをセブンヒルズのミラー理事長からいただき、思い切って訪問してきました。大歓迎され生涯忘れ得ない体験をさせていただきました。こうした自分自身の体験を通して感じたことは、人は他者との関わりの中で自分の存在を認識するものであるということです。今後とも子どもたちにとってよりよい学習環境づくりを進めて参ります。

